

西部電機株式会社

(東証スタンダード・福証 証券コード6144)

自然随順の思想で地球に新たな軌跡を描く



2023年3月期第2四半期

決算説明会

会社概要

(2022年9月30日現在)

商 号	西部電機株式会社 Seibu Electric & Machinery Co.,Ltd.
証券コード	6 1 4 4
上 場	東証 スタンダード市場 (2006年 東証2部上場) 福証 (1986年 上場)
本 社	福岡県古賀市駅東3-3-1
創 業	1927年1月
資 本 金	26億58百万円
発行済株数	15,160千株
時 価 総 額	222億 9百万円 (2022年11月30日現在)
売 上 高	263億23百万円 (2022年3月期 : 連結)
従 業 員	587名 (連結) 534名 (単体)
グループ会社	西電興産株式会社、株式会社西部ハイテック、 西部ペイント株式会社
HPアドレス	https://www.seibudenki.co.jp

目次

1. 2022年度 上期 連結業績

- ・事業セグメント別 売上高構成比
- ・2022年度 経営環境
- ・2022年度 上期 連結業績
- ・事業セグメント別 受注高推移
- ・事業セグメント別 売上高推移
- ・営業・経常・親会社株主に帰属する
四半期純利益推移
- ・営業利益増減要因分析
- ・2022年度 上期 連結貸借対照表

2. 2022年度 通期 連結業績見通し

- ・2022年度 経営方針
- ・2022年度 通期業績見通し
- ・事業セグメント別 売上高予想
- ・設備投資、研究開発費、減価償却費
- ・新精密工場兼事務所棟建設について
- ・事業セグメント別概況・基本方針・
通期見通し

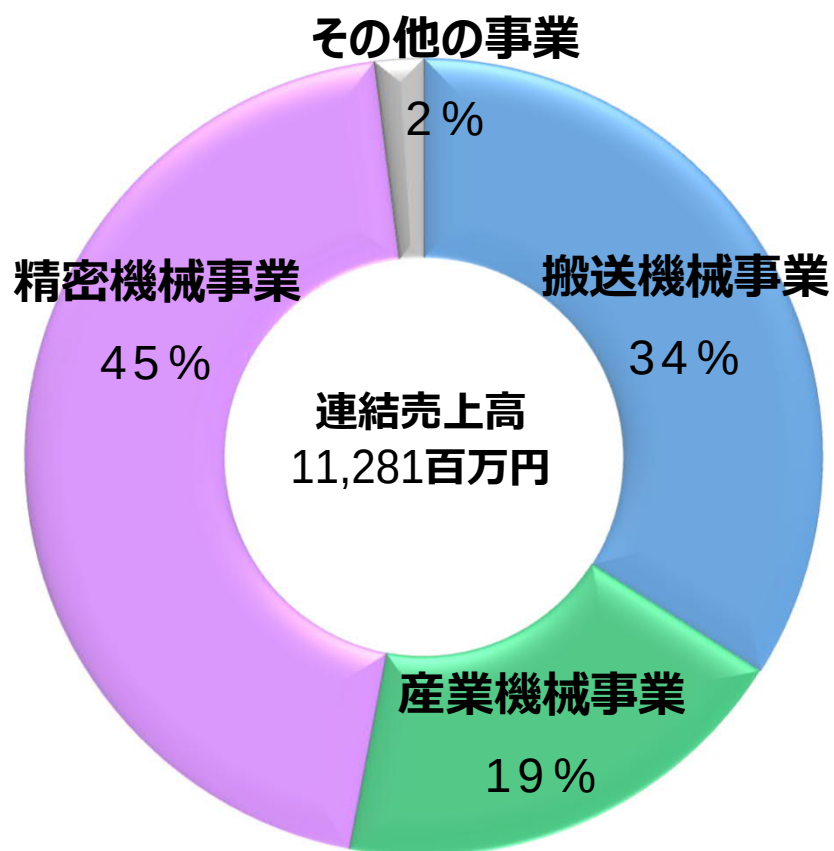
3. その他のトピックス

- ・ワイヤ放電加工機 開発50周年
- ・株主還元（配当政策・株主優待）
- ・配当金推移
- ・「チャレンジ280」中期経営計画 売上高推移

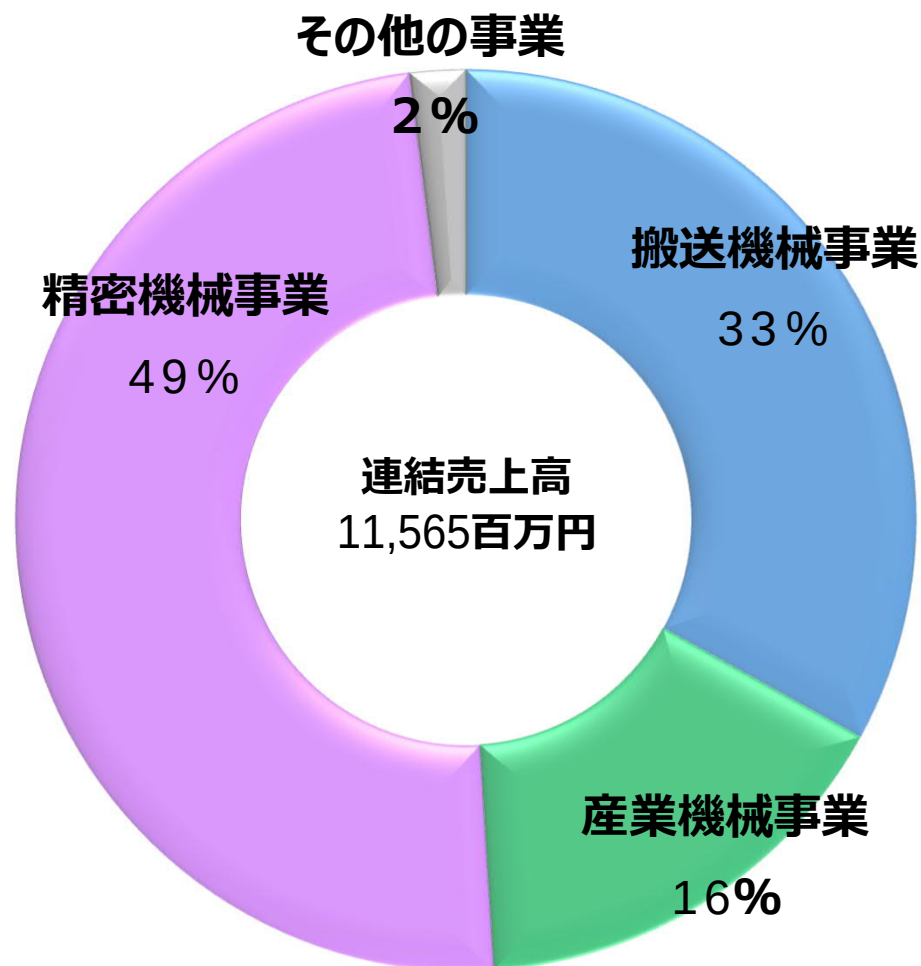
1. 2022年度 上期 連結業績

事業セグメント別 売上高構成比

2021年度 上期



2022年度 上期

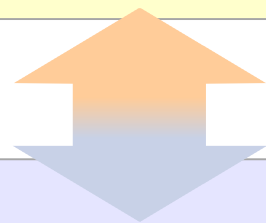


2022年度の経営環境

プラス要因

- 円安による輸出関連事業の伸長
- 生産設備機械の自動化や省力化、デジタル化の流れ

半導体市場の拡大や積極的なニューインフラ関連投資の推進



マイナス要因

- パソコンやスマートフォンなどのハイテク製品需要の循環的な減少局面
- 地政学的リスクの懸念などによる原材料価格、エネルギー価格の高騰

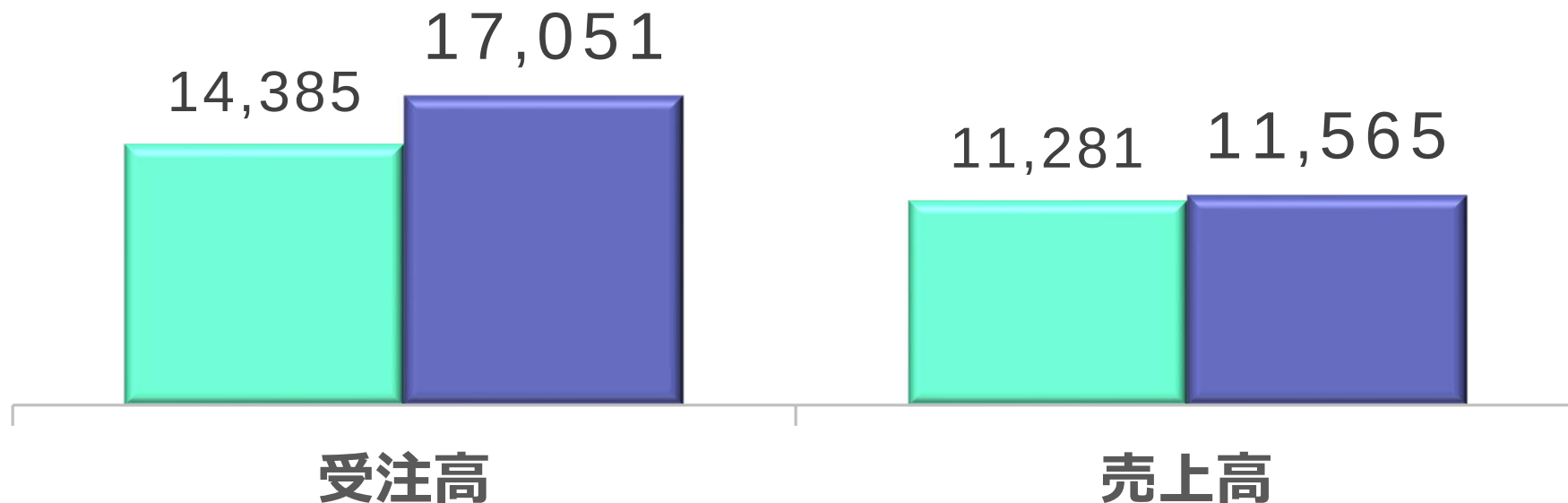
電子部品等の供給不足や資材労務費高騰への対応
諸外国の通商問題、政治・経済の不安要素

2022年度 上期 連結業績

■ 2021年度上期

(単位：百万円)

■ 2022年度上期



	上期実績	増減額	前年同期比
受 注 高	17,051	+ 2,666	+ 18.5%
売 上 高	11,565	+ 284	+ 2.5%

▶ 受注高は、全ての事業セグメントにおいて増加

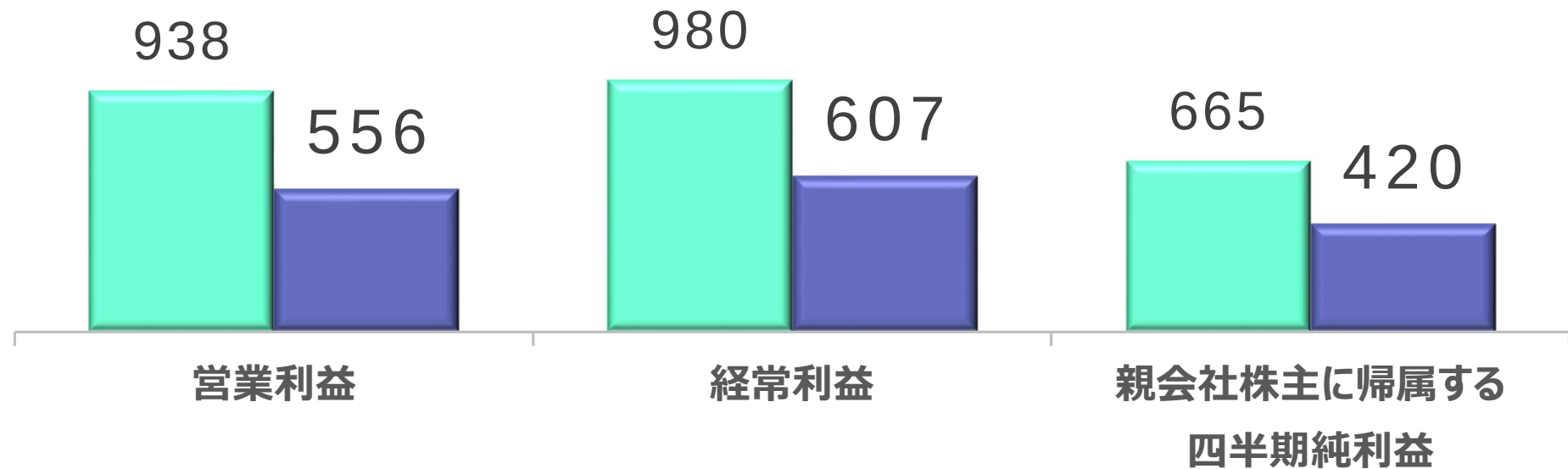
▶ 売上高は、主に精密機械事業が増加し、増収

2022年度 上期 連結業績

■ 2021年度上期

(単位：百万円)

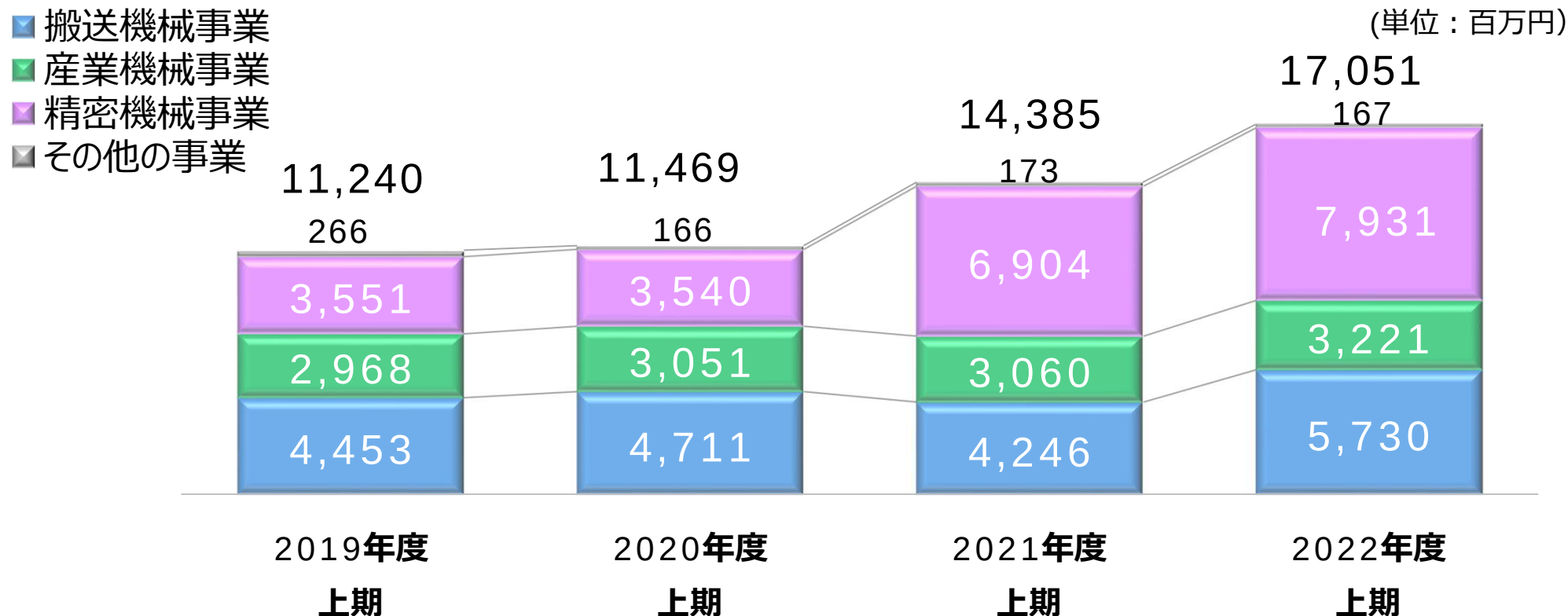
■ 2022年度上期



	上期実績	増減額	前年同期比
営業利益	556	△382	△40.8%
経常利益	607	△372	△38.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	420	△245	△36.8%

▶ 各利益とも、原材料価格や資源価格の高騰などの影響により減少

事業セグメント別 受注高推移



【搬送機械事業】

- ▶ 既存顧客からの大口物件の成約もあり、前年同期比34.9%増

【産業機械事業】

- ▶ 民間需要の掘り起こしや既存事業のシェアアップ、サービス・メンテナンスに注力し、前年同期比5.3%増

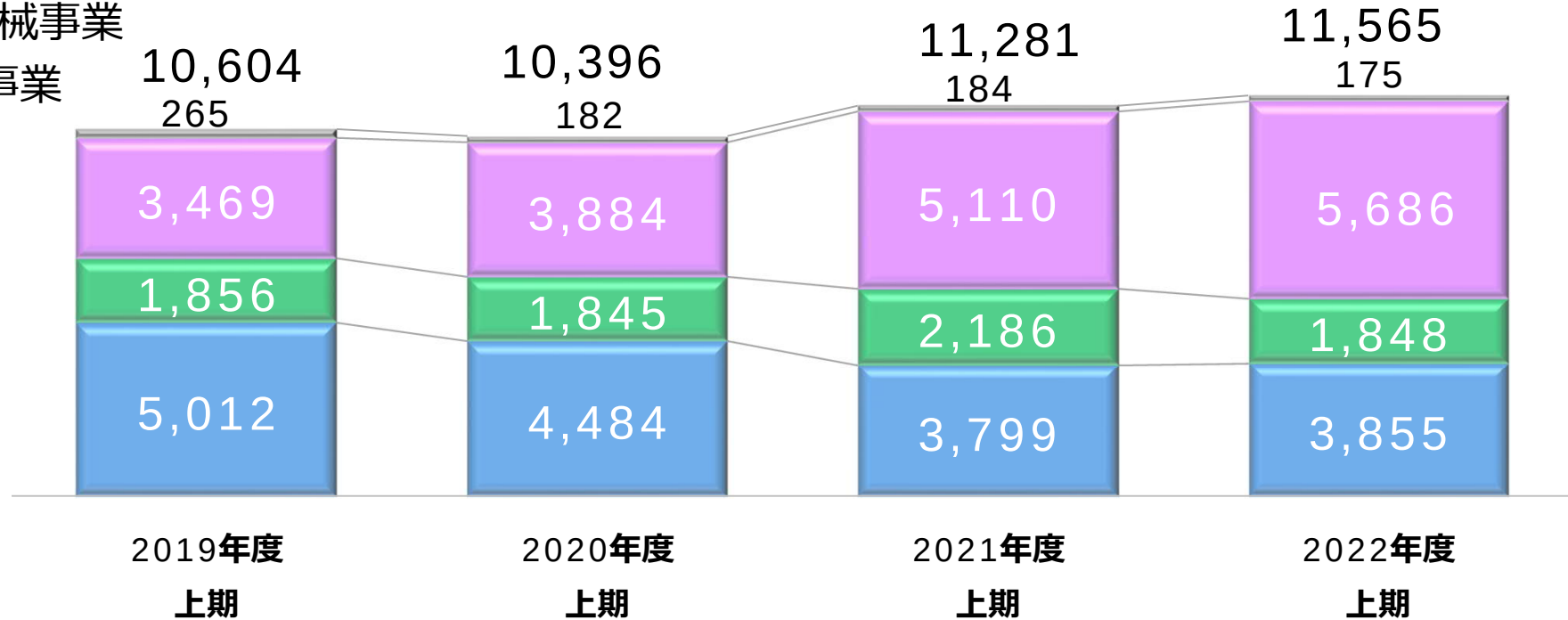
【精密機械事業】

- ▶ 国内は補助金効果、海外は中国向けワイヤ放電加工機の受注が堅調に推移し、前年同期比14.9%増

事業セグメント別 売上高推移

- 搬送機械事業
- 産業機械事業
- 精密機械事業
- その他事業

(単位：百万円)



【搬送機械事業】

▶ 前年同期比1.5%増

【産業機械事業】

▶ 前年にあった大型案件がなく、前年同期比では15.5%減

【精密機械事業】

▶ 国内は回復基調、海外は中国向け輸出の好調により、前年同期比11.3%増

営業・経常・親会社株主に帰属する四半期純利益推移

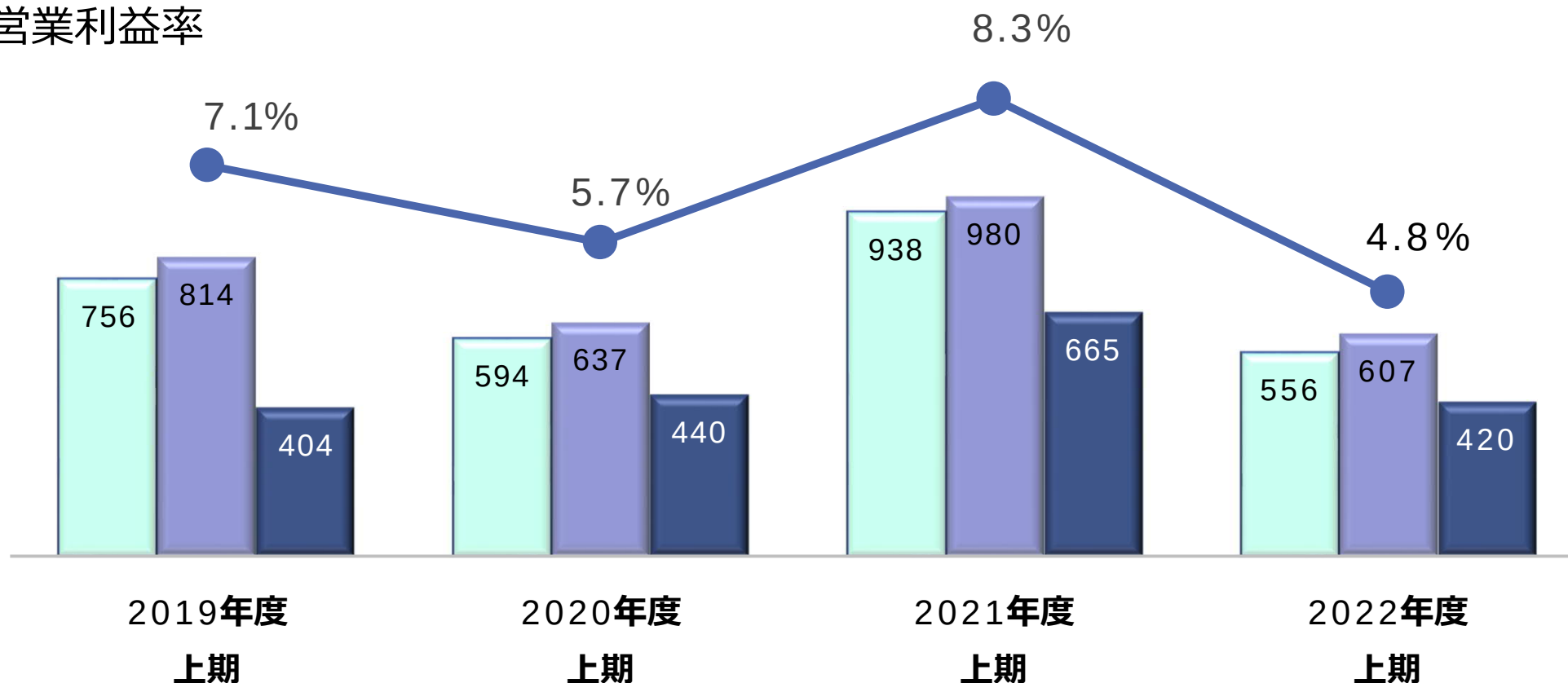
(単位：百万円)

■営業利益

■経常利益

■親会社株主に帰属する四半期純利益

●営業利益率

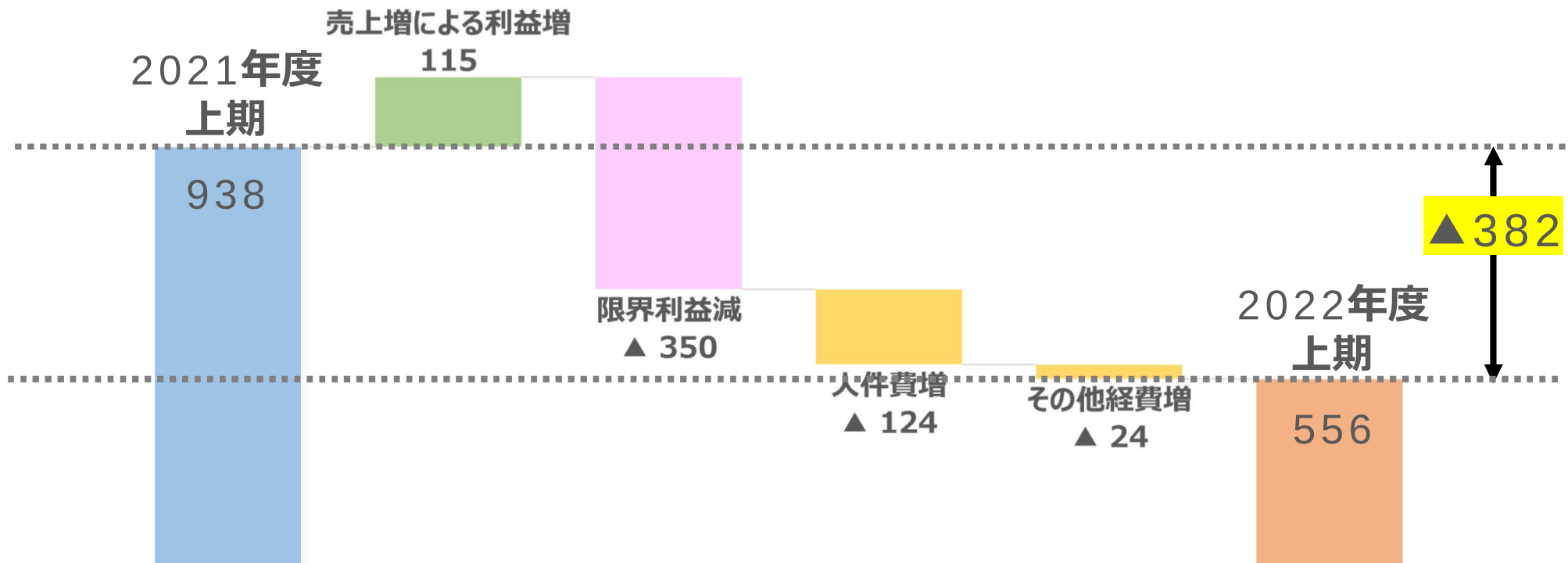


- ▶ 売上高は増加したものの、原材料価格や資源価格の高騰の影響により、各利益とも前年同期を下回った。
- ▶ 利益目標達成に向けて、更にC Dに注力し、売価転嫁、経費削減を進める。

営業利益増減要因分析

2021年度 上期実績 → 2022年度 上期実績

(単位：百万円)



【限界利益】

- ▶ 原材料価格高騰による直材直経比率の上昇、間接材料費・運賃諸掛費増等により減少

【人件費】

- ▶ 人員増による増加

【その他経費】

- ▶ 展示会出展費用や出張旅費交通費の増加により減少

2022年度 上期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2022年 3月末	2022年 9月末	増減	主な増減要因
流動資産	25,403	24,371	△ 1,032	売掛債権の減少
固定資産	17,849	17,082	△ 766	投資有価証券の減少
資産合計	43,252	41,454	△ 1,798	
流動負債	11,871	11,069	△ 801	未払法人税の減少
固定負債	4,061	3,842	△ 219	
負債合計	15,933	14,912	△ 1,021	
純資産合計	27,319	26,541	△ 777	その他有価証券評価差額金の減少
負債及び純資産合計	43,252	41,454	△ 1,798	
(自己資本比率)	63.2	64.0	+0.8pt	

2 . 2022年度 通期 連結業績見通し

2022年度 経営方針

2021年度から2023年度までの中期経営計画
『チャレンジ280』の2年目

2022年度 経営スローガン

新たな変革にスピードを意識し
果敢に挑戦して行こう

重点施策

受注の確保

コストの削減

品質の向上

2022年度 通期 業績見通し

単位（百万円）

	2021年度 実績	2022年度 見通し			
		上期実績	通期	前期比	
				増減額	増減率（％）
受注高	29,357	17,051	31,810	2,453	8.4
受注残高	11,841	17,327	15,310	3,469	29.3
売上高	26,323	11,565	28,340	2,017	7.7
売上総利益	7,644	3,059	7,720	76	1.0
営業利益	2,724	556	2,800	76	2.8
営業利益率（％）	10.3％	4.8％	9.9％	△ 0.4pt	—
経常利益	2,827	607	2,870	43	1.5
親会社株主に帰属する 当期（四半期）純利益	1,942	420	1,945	3	0.1
1株当たり純利益（円）	128.69	27.86	128.84	0.15	—

- ▶ 受注高は、好調な中国向け精密機械と底堅い搬送機械の自動化需要を取り込む
- ▶ 売上高は、中期経営計画の2年目の目標270億円超を目指す
- ▶ 経常利益は、6年連続20億円超、当期純利益は、6年連続の10億円超を目指す

事業セグメント別 売上高予想

(単位：百万円)

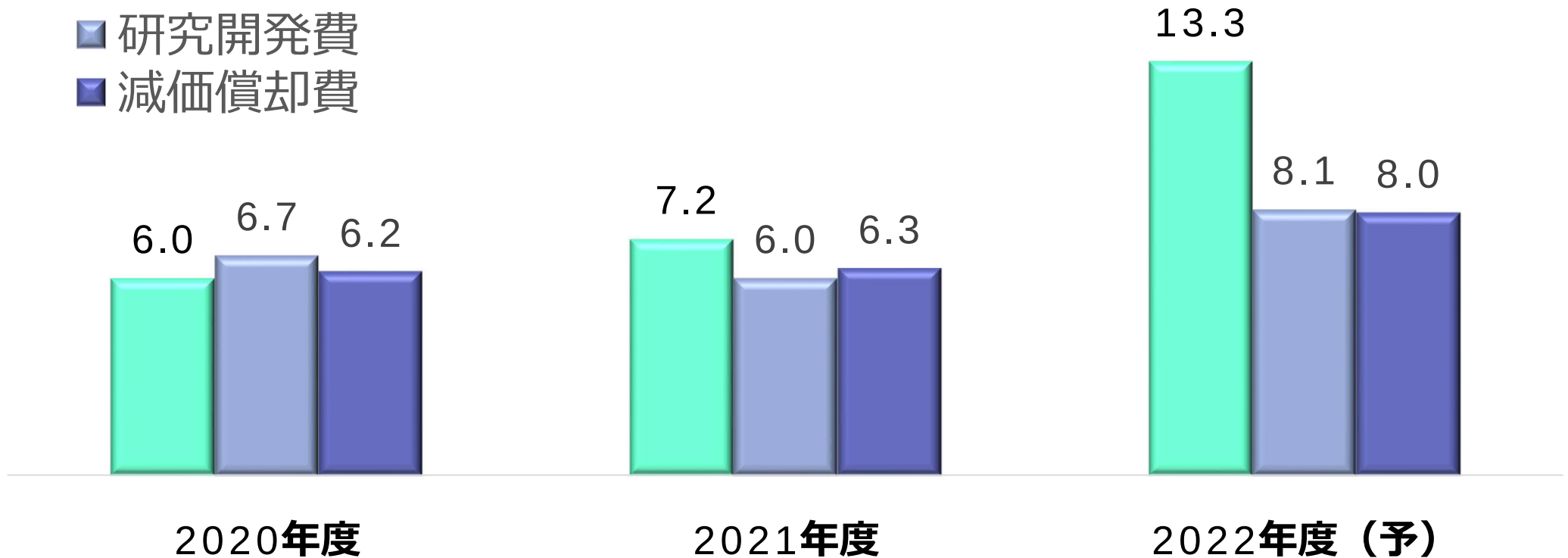
	2021年度 実績	2022年度予想			
		上期実績	通期	前期比	
				増減額	増減率 (%)
搬送機械事業	8,739	3,855	9,900	1,161	13.3
産業機械事業	6,224	1,848	6,400	176	2.8
精密機械事業	10,898	5,686	11,540	642	5.9
その他事業	461	175	500	39	8.5
合 計	26,323	11,565	28,340	2,017	7.7

- ▶ 2022年度下期は大きな受注残を抱えており、売上の見込みもほぼ立っているが、部品の長納期化、コロナ禍、客先建築遅れ等の影響を最小限にすべく、事前管理を徹底していく。

設備投資・研究開発費・減価償却費

- 設備投資額
- 研究開発費
- 減価償却費

(単位：億円)



【設備投資額】

- ▶ 新工場の建設や、積極的な生産設備の老朽化更新と増設を計画

【研究開発費】

- ▶ 市場や顧客にターゲットを絞った研究開発
- ▶ 中長期を見据えた開発計画の推進

【減価償却費】

- ▶ 積極的な設備投資に伴い増加の見込み

新精密工場兼事務所棟建設について

■ 新精密工場兼事務所棟建設の目的

電子部品及び電気自動車関連の生産急増および半導体市場の急激な成長を背景に、当社製品に対する需要も高い水準で推移し続けている。

現状の対応能力以上の受注が続いているため、高まる製品需要に対して今後もの確に対応していくため、新工場の建設によって生産能力を現状比で1.5倍に高め、事業の競争力強化を図る。

■ 新精密工場兼事務所棟の概要

- (1) 名 称 : 新精密工場兼事務所棟
- (2) 所 在 地 : 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
(本社工場敷地内)
- (3) 構 造 : 鉄骨造 (準耐火構造)
- (4) 規 模 : 地上3階
延床面積 11,785.00m² (3,564坪)
建築面積 6,170.00m² (1,866坪)
- (5) 着 工 : 2022年12月 (2024年9月竣工予定)
- (6) 投資金額 : 約50億円



新精密工場兼事務所棟 外観イメージ

搬送機械事業の概況

▣主要商品

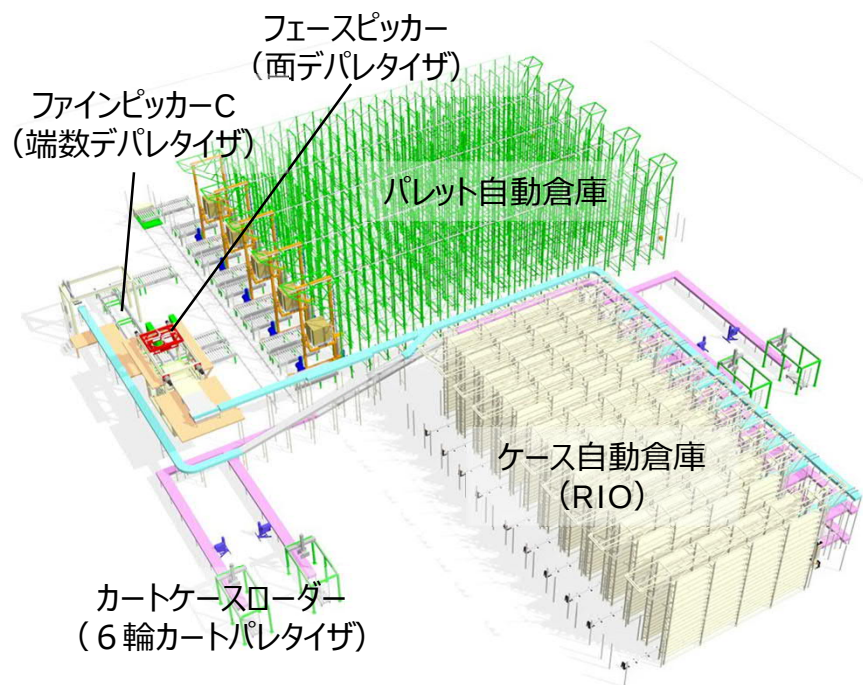
立体自動倉庫
F Aシステム
ケース自動ピッキングシステム
搬送・ハンドリングシステム
ロボティクスマテハン

▣事業の特徴

自社開発・販売
オンリーワン商品
24時間対応サービス体制
優れたソフト開発力

▣シェア（推定値）

立体自動倉庫市場 20%
自動ピッキングシステム
（高速分野） 10%
無人加工システム市場 40%



コンビニエンス向け
飲料自動ピッキングシステム

▣ 主な納入先業界

< 業 界 >

食 品

運輸・倉庫・卸

医 薬 / 化 学

機 械

電気機器

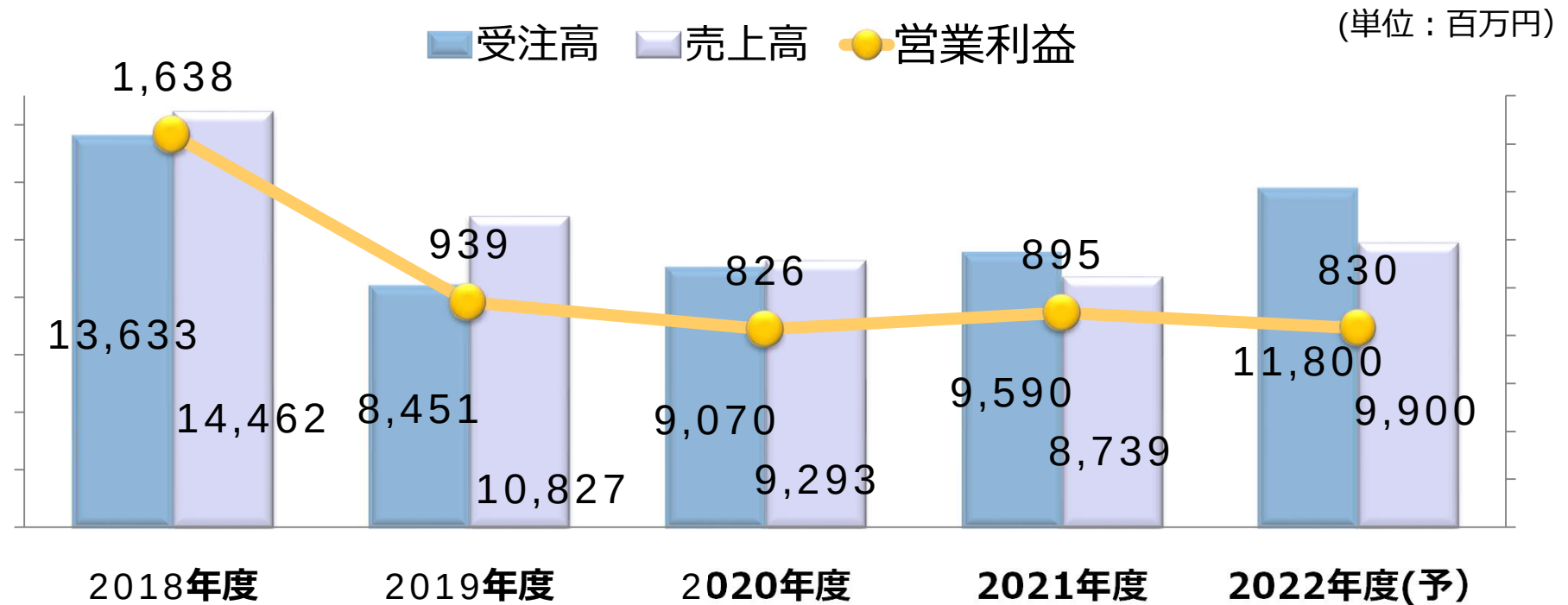
そ の 他

1 . 従来型自動倉庫の
採算性向上と
新市場開拓

2 . ロボティクス・マテハンの
開発並びに拡販

3 . 提案型サービス
による拡販と
コールセンター
の充実

搬送機械事業 通期見通し



- ▶ 顧客の課題解決型『トータルソリューションシステム』の提案、開発、製造・販売。
- ▶ 『ロボティクス・マテハン』の開発、製造・販売。
- ▶ 流通・食品・電池・薬粧・機械の各業界を重点に拡販。
- ▶ (株)豊田自動織機殿との機種統合による標準自動倉庫のOEM供給。
- ▶ 国内外（中国）向けサービスメンテ事業の強化。



ロボティクス・マテハン
(トランシップ・カートローダー)

産業機械事業の概況

▣主要商品

バルブアクチュエータ
ゲート駆動装置
バルブ制御システム

▣事業の特徴

高い市場占有率
納入実績70万台
サービス・メンテナンス網の充実
(全国をカバー)

▣シェア（推定値）

上下水道	70%
電力・鉄鋼	20%
河川・ダム	40%



ゲート駆動装置
(大型チェーン式)



(バルブアクチュエータ)
Semflex®シリーズ

□ 主な納入先業界

< 業 界 >

官庁関係 (厚生労働省・国土交通省・
防衛省・各地方自治体 他)

バルブ・ゲートメーカー 各社

電 機・重 工・造 船 各社

そ の 他

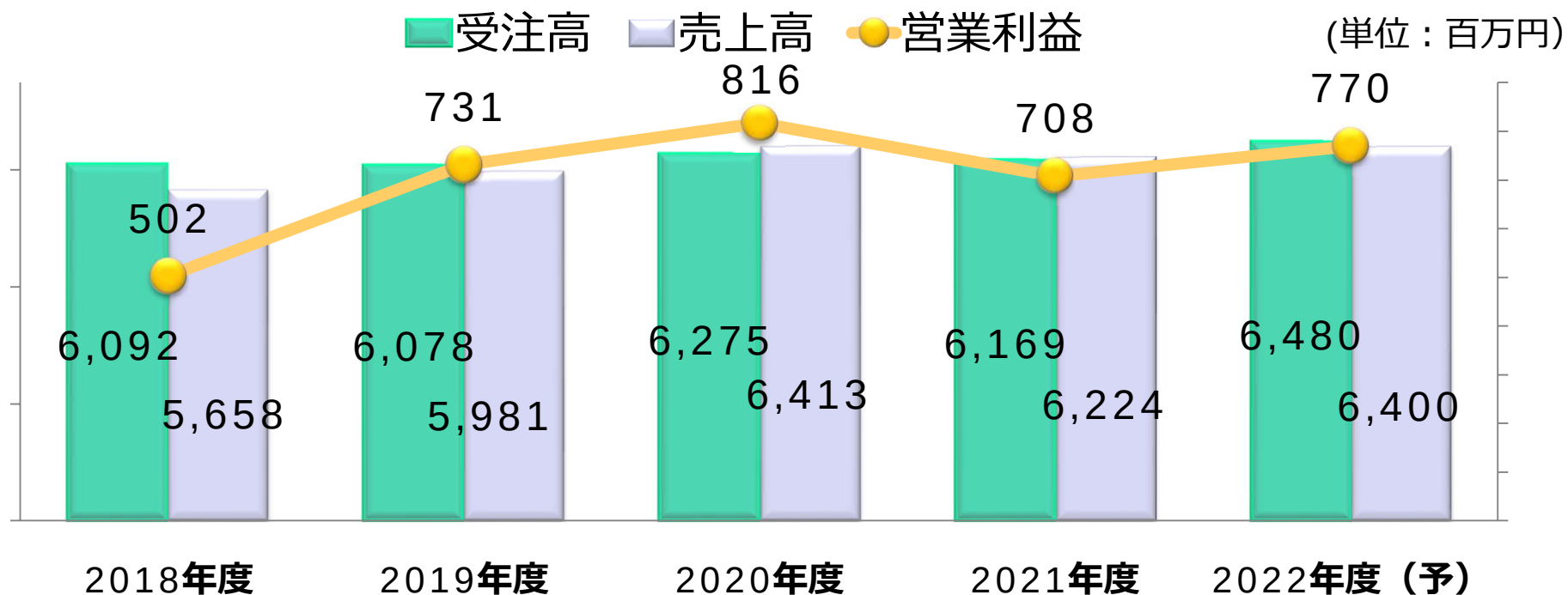
産業機械事業 2022年度の基本方針

1. メンテプランの提案
強化によりM E 事業
の受注拡大

2. 災害対策商品を
民需・ゲート市場へ
展開

3. 海外生産工場立ち上げ
と共に海外市場に適合
した製品を開発し
市場展開・拡販

産業機械事業 通期見通し



□ 重点施策

- ▶ 鉄鋼などの民間企業をターゲットに提案型新システムの拡販。
- ▶ 国内火力発電所の新規案件の受注獲得。
- ▶ 造船・ガス分野にVMMで新規参入及び載せ替え案件の受注獲得。
- ▶ 大型ゲート物件のコストダウンと拡販。
- ▶ メンテナンス受注の獲得。
- ▶ タイ市場の拡張。現地生産の充実と整備。



Semflex-VMM-Z

精密機械事業の概況

▣主要商品

【放電加工機】

超精密・高精密ワイヤ放電加工機
超精密ワイヤ放電加工機（油仕様）

【工作機械】

高精密小形NC旋盤
自由形状内面研削盤

▣事業の特徴

【放電加工機】

業界No. 1 評価のワイヤ自動供給装置
金型業界No. 1 のピッチ精度・

加工安定性

【工作機械】

抜群の寸法安定性
金型等への市場拡大

▣シェア（推定値）

【放電加工機】

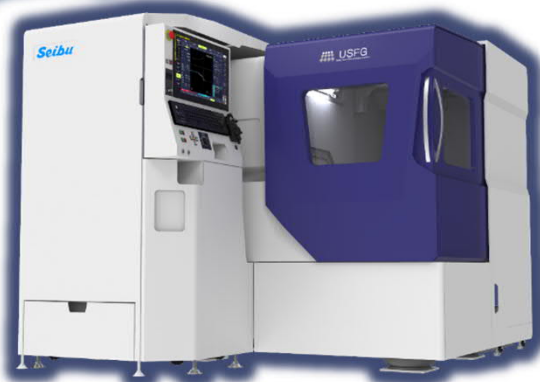
35% 国内生産分

【工作機械】

高精度対象商品



（放電加工機）
MM50UP



（工作機械）
USFG

▣ 主な納入先業界

< 業 界 >
精密金型 他
自動車・航空機
電 子・電 機
光 学
そ の 他

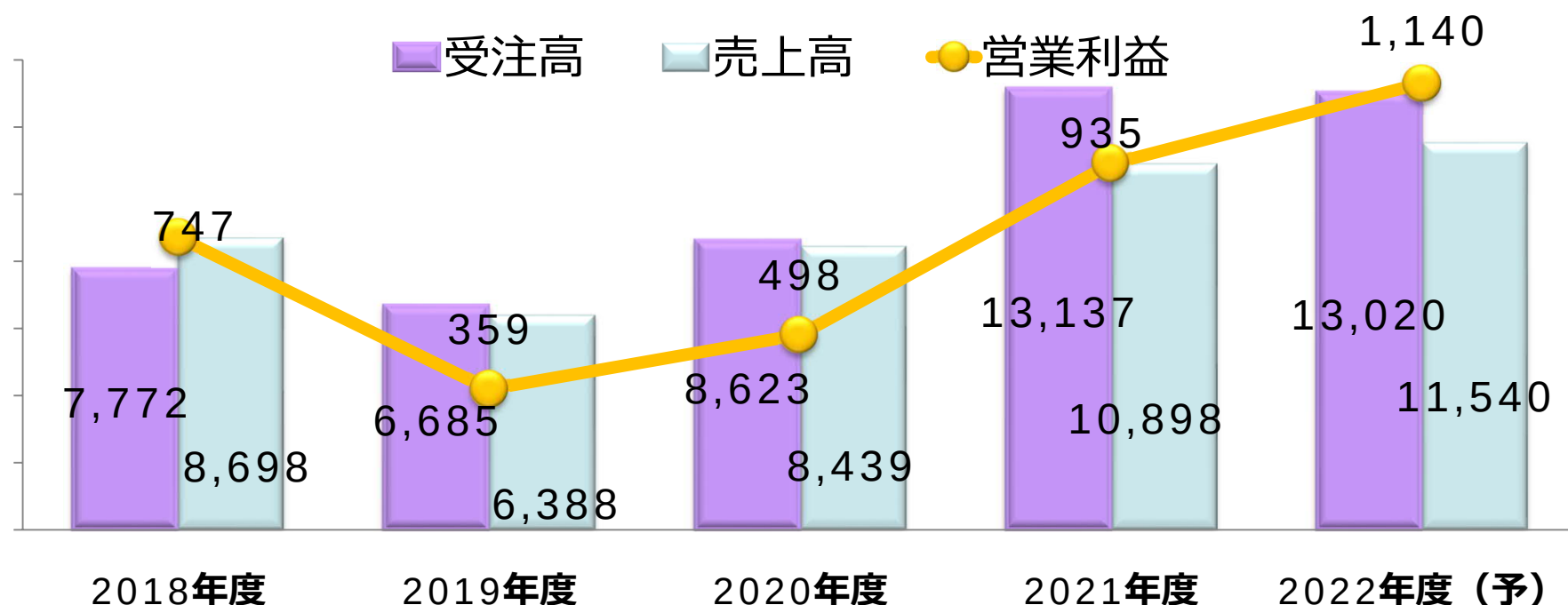
1. 地域別の販売戦略を展開し
中国一極からの
脱却を目指す

2. ターゲット分野
(半導体・EV・医療・
鍛造金型)に
向けた新製品開発、
新システム開発の
スピードアップ

3. 保守、技術
サポートを充実させ
販売店との強化を図り
当社のブランド力と
知名度をアップ

精密機械事業部 通期見通し

(単位：百万円)



□ 重点施策

【放電加工機】

- ▶ 大型高精度加工機『SuperMM80B』の拡販。
- ▶ プレート加工に特化した超精密加工機のラインアップ展開。
- ▶ 高精度・超精密をアピールし海外市場獲得。

【工作機械】

- ▶ 金型業界へ高精度複合研削盤として、S F Gシリーズを国内外に拡販。
- ▶ 高生産性の客先のご評価を基に、自動車及び航空機の高精度部品加工機として拡販。

3. その他のトピックス

ワイヤ放電加工機 開発50周年

1972年、世界初のCNCワイヤ放電加工機を開発して半世紀を迎えました。

世界初CNCワイヤ放電加工機の開発から50年。

日々の研鑽と伝統の技で、超精密に挑戦し続けた。

移り変わる時代とお客様のニーズに耳を傾け、
先 駆 者
いつの時代もワイヤ放電加工機の“Forerunner”であれと。

いままでの50年。支えて頂いた感謝を...

これからも50年。“ゆるぎなき信頼が明日を拓く”



Beyond The Century

～更なる半世紀へ～

超精密ワイヤ放電加工機



JIMTOF2022出展機

【新製品】MM50UP

水仕様ワイヤ放電加工機のラインアップを刷新し、
最上位機種を拡充しました。

半導体分野などで高まる高精度ニーズに応えるとともに、
加工対象物（ワーク）の大型化に対応します。

株主還元（配当政策・株主優待）

■ 配当政策

株主還元につきましては、経営の重要課題の1つとして認識しております。
配当政策については、安定的配当を基本としつつ、業績の向上によって1株当たりの利益水準を高めるとともに、中長期計画、財務状況、収益性を考慮しながら、これに対応した配当を決定すべきと考えております。

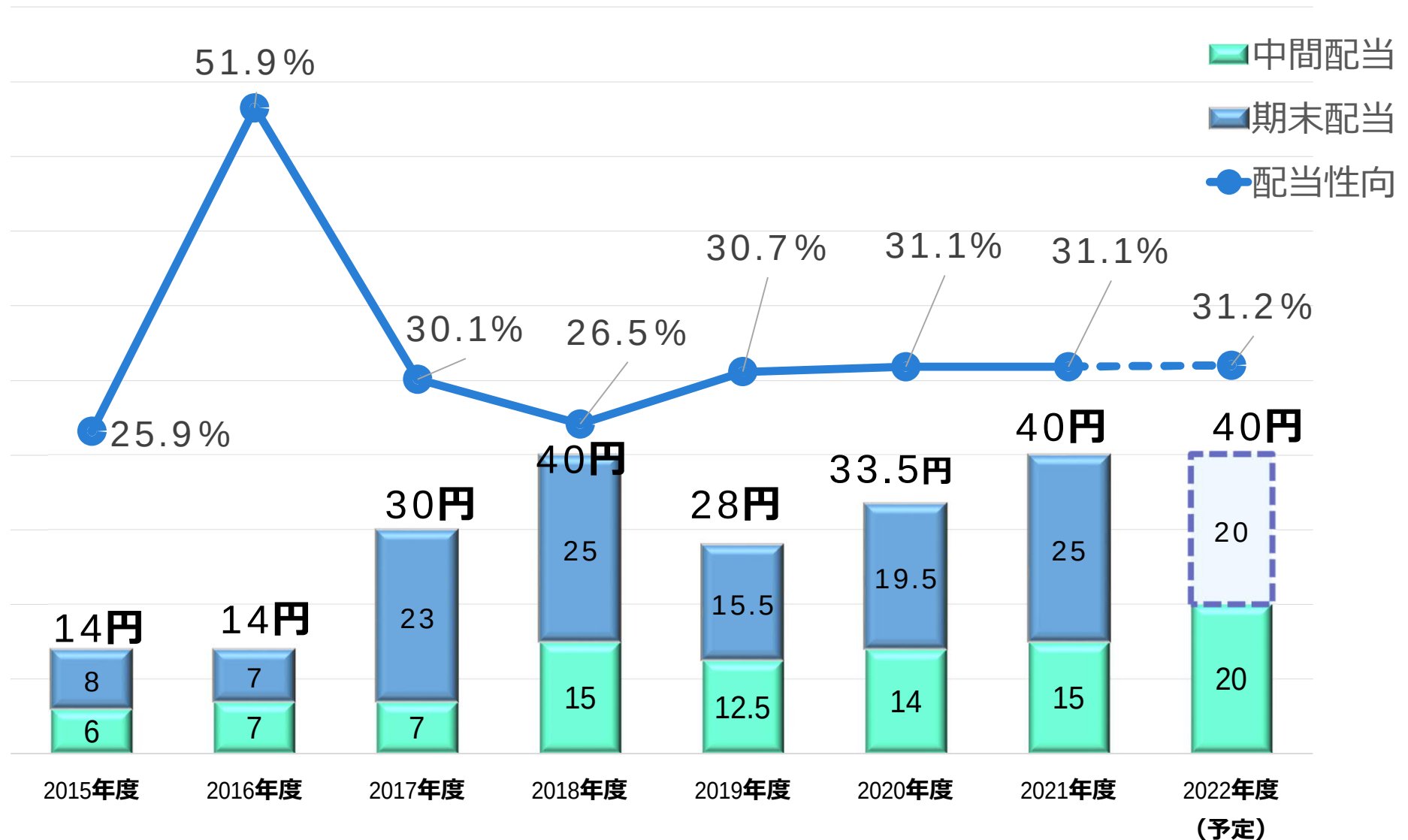
■ 株主優待

株主優待制度を実施しております。
3月31日現在の株主名簿に記載された当社株式1单元（100株）以上保有の株主様に、当社オリジナルQUOカード1,000円分を贈呈いたします。



配当金推移

■ 2022年度の配当予想は、前年度と同額の年間40円/株を予定

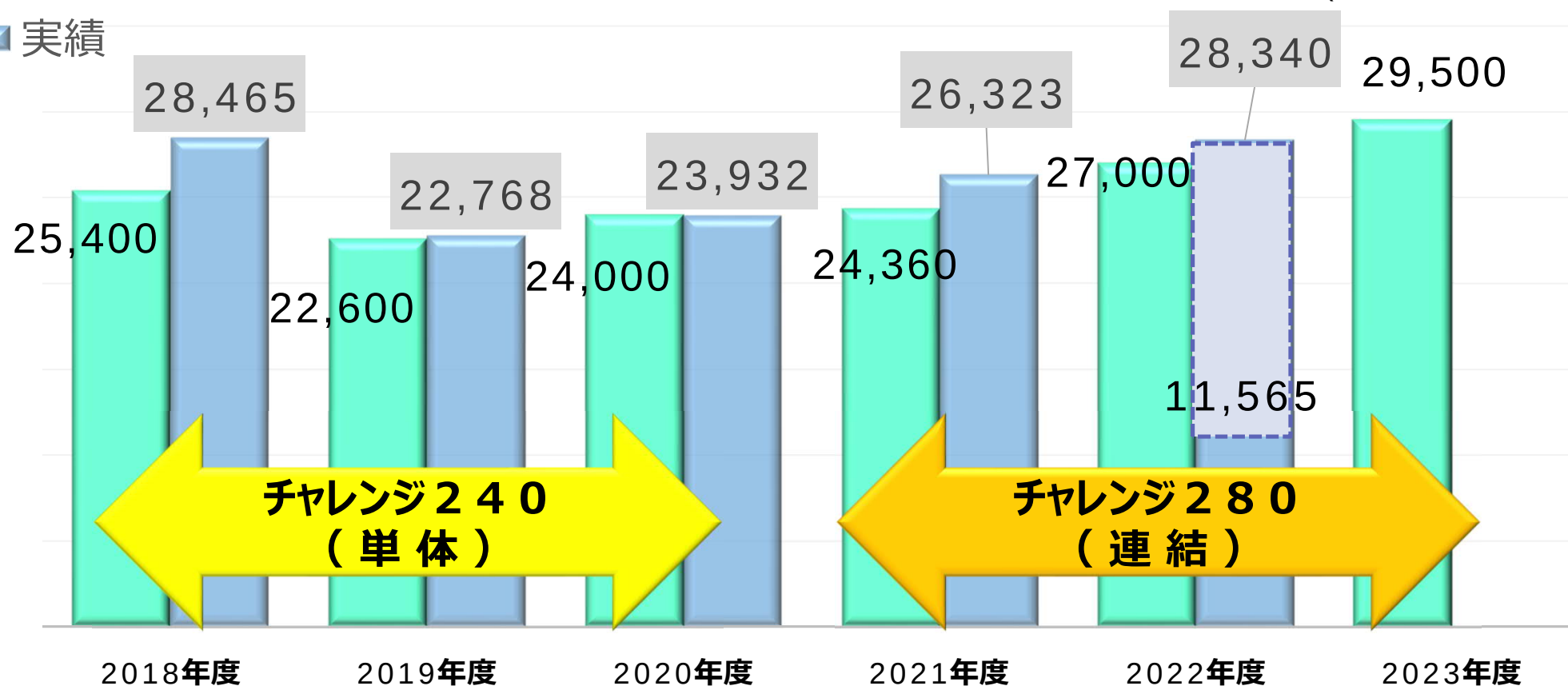


「チャレンジ280」中期経営計画 売上高推移

2018年度～2022年度見通し

■ 計画
■ 実績

(単位：百万円)



- ▶ 中期経営計画『チャレンジ280』では、常時売上高280億円以上を達成する為の確固たる基盤を構築して参ります。
- ▶ 『チャレンジ280』初年度は、計画を上回り、今年度も計画を上回る予想としております。

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスク及び不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値と異なる結果となる場合があります。



東証スタンダード・福証（証券コード：6 1 4 4）

＜お問い合わせ先＞ 経営企画室

TEL：092-941-1500

FAX：092-941-1511

URL：<https://www.seibudenki.co.jp>